



一般社団法人 大日本武徳会

会報 **武徳**

2014.10 秋季号



# 追悼文

青蓮院門跡  
門主

東伏見慈晃

平成二十六年一月一日、父、前総裁は百三歳の天寿を全うし、安らかに安養の淨刹に旅立ちました。

平成十八年四月に起立性低血圧症を発症して、立ち上がると貧血を起こす治療法のない病で、寝たきりの生活を余儀なくされました。

庭の草ひきや、歩くことの好きだった父にとり、身体の機能を次第に失っていくこととなり、本当に気の毒なこととなりました。

それより前、平成七年に喉頭癌の手術で声帯を失ってからは、ブザー状の器械で会話をしてきましたが、七年ほど前からは、器械の操作が難しくなり、次には筆談となり、それも数年前から意思疎通の困難さが進行していきました。もつと話を通じるときに、武徳会様のことを色々聞いておくべきだったと悔やまれてなりません。

最後は、何もしてあげられないもどかしさと、悲しさでした。見舞いに行っても、今日は武徳祭がありましたよとか、分かっているかどうかは別に、ただ一方的に話しかけるだけで、本当に痛ましいことでした。

父が武徳会の大会に出席できなくなりました事情はそのようなことですが、私が青蓮院に入りましてから、まもなくのことです。

従って父が武徳会の先生方や行事に、また、会の運営等にどこまでご縁が深かったのか、私はほとんど知らないといつて良いほどです。

父は戦前の大日本武徳会の最後の総裁を自分の父、久邇宮邦彦王が

務めており、武道家でもない僧侶の身で会長をお受けしたのは、その理由からだと思えます。父は父邦彦王のことを「おもうさま」と呼び、折にふれ話に出る時は、邦彦王のことを大変大切に思っていたことが思い出されます。

従って会の運営上のこともご相談に預かる気持ちがあり、「〇〇先生がこう云っていた」等々具体的な問題について、その都度、母に話していたように記憶しています。父としては会の運営に相当関心があつたようです。

今般、戦前の大日本武徳会の京都支部道場を「青龍殿」として移築再建活用することになりましたが、このことはもちろん父に話しかけ、どこまで理解できていたか分かりませんが、逐一報告して参りました。もし父がしっかり判断、認識が可能であつたなら、「青龍殿落慶」をどんなに喜んでくれたかと思えます。そのようなことから、今秋十月四日の落慶式まで、もう少し永く存命してくれたら、現場をお見せできたなら、どんなに良かったかと思えます。

この事業は父の武徳会様への思いを私なりに、果たすことが出来たと考えております。

父への追悼文をとお話でしたが、意に沿わない文となりましたこと、お許しください。

末筆ながら大日本武徳会の益々の御隆盛と、諸先生方のご健勝をご祈念申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

総裁 東伏見慈晃 猊下

新総裁の旗下会員一同日本の精華伝統武道の真髄を継承  
法人大日本武徳会の発展に精進致します

大日本武徳会 総裁

青蓮院門跡 門主 東伏見慈晃猊下の  
聡明な英知と果敢な実行力に敬服致しております

京都市街（京都盆地）の景観が一望に出来る素晴らしい山頂  
北は比叡山・南は稻荷山に連なる京都東山三十六峰の名峰

華頂山

古跡將軍塚・大日堂

【青蓮院門跡・飛地】

山頂に

国宝青不動明王・大護摩堂

大道場 青龍殿 大展望台 【大正武徳殿移設を伴なう】  
難解な大事業を見事完璧に遂行されました

詳細は

青蓮院門跡・広報事務局・発行

京都・東山・將軍塚  
青龍殿建立と国宝青不動ご開張をご覧下さい

一般社団法人大日本武徳会

代表理事 桑原

兵充





一般社団法人  
大日本武徳会

総裁 東伏見慈晃様

ご臨席のもと

京都府・京都市のご後援をいただき

一般社団法人

大日本武徳会

第五十二回 全国武徳祭は

盛大に開催されました

本大会は

故 東伏見慈洽猊下の

遺徳を偲びご冥福を祈り  
各種武道の宗家先生会員一同  
追悼感謝の意を持って  
日頃切磋琢磨培った  
和魂武徳の本領伎倆を  
謹んで御霊に捧げました

合掌

念力

不可能も

可能に変える

青不動

素心

平成二十六年四月二十九日

代表理事 桑原 兵充

# 萬壽之體

大日本武徳会 総裁 東伏見慈洽



幸福が限り無い  
誠に有り難い表現である  
素心

大日本武徳会東伏見慈洽総裁

尊融徳心院望擬講大僧正慈洽大和尚

偉大な故総裁を偲びご冥福を

お祈り申し上げます 合掌

諸行無常万物流転 会者定離の理は  
常々心得ていましてもお別れとは辛く寂しいものです

筆にしたき事は雲の湧くごとく  
さわれ筆を執り紙に向かうと  
諸々の想い出が堰を切ったように押し寄せてくる

戦後外圧により戦争翼賛団体として  
大日本武徳会は全財産没収・強制解散  
理事役員は公職追放厳しい事態に陥りました

講和締結後有志の奔走で  
法人大日本武徳会復興を諮るも  
他組織三団体の反対阻止があり

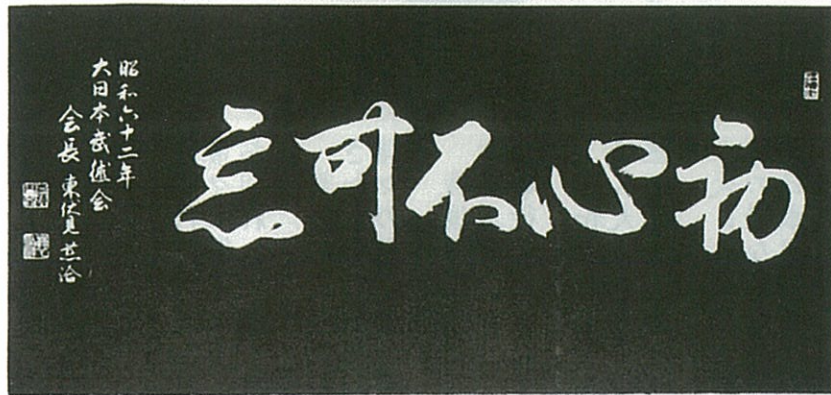
大日本武徳会名称の継承さえ危ぶまれました  
此の様な事態の最中敢えて  
大日本武徳会の存亡を担って総裁に就任して頂きました

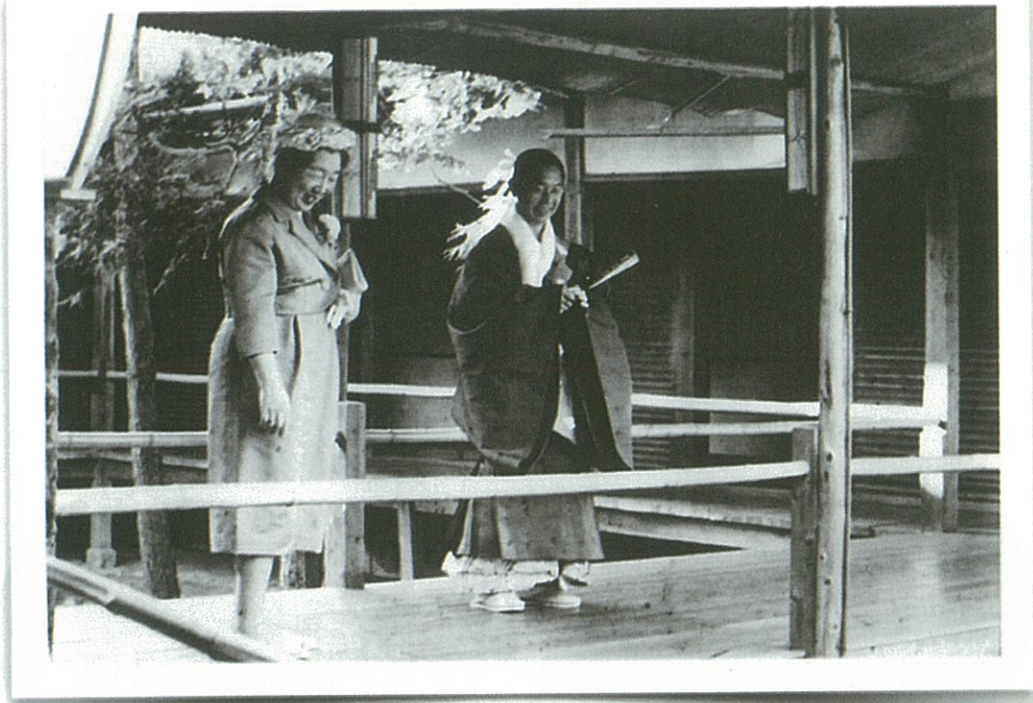
只只感謝  
ご存命中に法人に移行第一歩として  
一般社団法人大日本武徳会設立を果たし得た事は万感胸に迫る

一般社団法人 大日本武徳会

代表理事 桑原 兵充

# 大日本武徳会





香淳皇后様をお迎えして・総裁 東伏見慈洽様



平安千古の鎮

京都栗田口・青蓮院門跡



明治・大正・昭和・平成  
 世紀を超えて  
 温かいご指導ご高配を賜りました  
 大日本武徳会会員一同心から感謝  
 謹んでご冥福をお祈り申し上げます  
 代表理事 桑原 兵充





唯今が命の全てである  
この瞬間この唯今に  
すべてを包含する  
唯今を大切に  
正しく行する者は  
すべてを立派に全うする  
素心

青蓮門主 慈洽



# 大日本武徳会の未来的挑戦

濱田 鉄心

武道・武術の世界において常に要求されるのは洞察的な観念論のみではなく、冷静且つ堅忍不拔な決断と行動力である事は多くの歴史的な事実が証明している。人類の過去数万年に及ぶ盛衰の歴史において

国家間の闘争殺戮や戦争が数限りなく繰り返され、さらにそれぞれの国内の発展途上における内乱紛争などを考えれば想像を絶するほどの闘争を繰り返してきたと言わざるを得ない。これ等の史実は人間の根本的な性悪説の一面を明白に証明していると思われる。現在においても地球上の全ての生物を数千回破壊するほどの核兵器が核保有国に存在する事を考えれば人類の終末論的なアルマゲドン予言は人間の持つ不信感や恐怖心にその所以が見出される。大きなマクロの世界観から現実を見据えてこれから日本が確固たる独立国家として自ら日本の平和と安全を確保しながら恒久的な世界平和達成のためにどのような貢献をするべきかを国民一人一人が考え実行していく必要がある。その過程において日本は国家として内面からもっと強くならなければならないと考える。世界において本質的なリーダーシップを発揮して行くためには物質的な経済力や技術力だけでは不十分である。近代史の中

で和洋折衷の独創的な発展を遂げてきた日本人としての強い誇りと内面的な自信が次世代には必要である。

堪え忍ぶ事を美徳としない現在の風潮は次の世代に大きな問題をもたらすことが懸念される。個人と国家の平常心はいかなる難時においても冷静且つ迅速に対応出来る体制にあるという事が理想であるが、それは厳しい練磨研究の成果で備わる事であり至難の業である。過去半世紀以上に及ぶ社会全体の甘えの構造で鈍化された我が国の精神文化の中にメスを入れるのは大変困難な事であるが、各界の指導者は日本の精神文化と意識構造の立て直しを将来的な国家危機として取り組んでいく事が必要であると考えられる。

その中で歴史的な伝統文化を堅持してきた大日本武徳会が果たさなければならぬ役割は多々あると思われる。法人化した本会はその社会的な人格と責任の上で一層努力をしなければならぬ。本会の未来的展望は現在我々が総力を挙げて何をすべきかにかかっている事は

言うまでもない。本年度の主要事業は東伏見慈治総裁の追悼事業として二月八日に本年度定時社員総会から始まり、四月二十八日高段者審査会、四月二十九日第五十二回全国武徳祭と続き、六月二十日から三十日まで国際部武道講習会、錬成大会、さらにその間大阪、広島、名古屋での支部大会事業などが開催された。そして九月十五日に第二十回全国青少年武徳祭が予定され、十月二十六日に第二十二回平安神宮奉納演武大会が実施される。これ等全ての事業は会員が一丸となって協力することにより本来の目的趣旨に対して大きな成果を修める事と確信する。

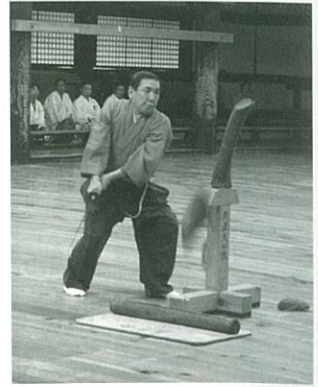
しかし我々は現在の成果に対して満足することなく、絶えず向上改善を目標にして努力しなければならないと考える。本会の支部団体が会員数を総力で増やし、大会事業を盛り上げていく事によって伝統武道への啓蒙的な活動がさらに広まる事が期待される。本会が誇る優秀な武道執行専門委員先生方の一層の活躍が期待されると同時に伝統武道の継承や発展に貢献する質的な改善向上には世界が注目している。そのためには会員全員の総力を挙げた異次元の熱意、賛同、協力、実践が必要とされることは言うまでもない。本年度十月將軍塚に青龍殿の建立が予定されており、清水の大舞台を凌ぐ荘厳な建築物は歴史的な大正武徳殿の再現として内外の関心を呼ぶと思われる。そこにおいても本会の未来的な武道啓蒙活動が活発に実施されることを期待したい。

平成二十七年は終戦七十周年を記念して、昭和から平成時代の集大成となるべき事業を展開していく必要がある。それは個人と国家が自らの稜を決行し襲古還新の価値観を念頭に入れながら新しい自己創生の道を切り開いていく事に繋がらなければならないと考える。強い国家は強い個人の集合体である事を忘れてはならない。そういう観点から日本が自らの歴史を再検証して全ての現実に真摯に立ち向かっていかなければならない試練の年が到来すると予期される。我々は来年度の本会事業に対してそういうマクロ観点を踏まえながら伝統武道の促進発展も考えていかなければならない。

さらに来年は本会創立百二十年の歴史的節目となる。国内における会員総数が横ばいもしくは減少状態である状況は大きく改善していかなければならない。現状維持だけでは本会の未来は危ういと考える。輝かしい歴史を誇った大日本武徳会が終戦後七十年にして法人化を果たし今正に新しい発展の扉を開こうとしている。過去一世紀以上に渡り艱難辛苦の苦勞を積み重ねられてきた多くの先達先生方の御努力に対して深い敬意を表すると共に本会の未来的発展の為に先生方の叡智を再度考察検証し初心と原点に戻る事も大切であると考える。

本会のさらなる未来的再生はいずれ日本国の力強い精神的再生の一端につながると信じていたい。次の二年間はそういう意味で大きな歴史のうねりの過渡期であり本会が自ら挑むべき道をまっしぐらに会員一丸となって協力し邁進していく事を祈願したい。





# 第五十二回 全国武徳祭・総裁追悼大会

## 団体最優秀賞

### 最優秀賞を受賞して

日本古武道直心会 会長 石本 一平

平成二十六年四月二十九日に総裁東伏見追悼第五十二回全国武徳祭が開催されました。参加多数の団体の中で第一回最優秀賞を受賞することができ、感謝するとともに皆様に御礼を申し上げます。

東伏見慈治前総裁は、平成二十六年一月一日に遷化され、今年の全国武徳祭は、追悼の大会でもありました。生前の元気な御姿を思い浮かべつつ、謹んでそれぞれの武技をもって各団体とも追悼されたことと思えます。

古来より日本では、「剣禅一致」や「茶禅一致」など、芸道と禅の教えが融合し、それが一つの文化となって現在に受け継がれています。

禅宗では、祖師と言えば達磨大師ですが、達磨大師は、南天竺香至国の第三王子として生まれ、父親の死後、修道出家し、中国に仏縁ありと海路三年にして現在の広州に着き、老齢の身をもって中国に仏の種を植えて、仏法を広められました。

中国から日本に伝来し、日本では、曹洞宗・臨済宗・黄檗宗などの宗派が現在に至っております。仏法は、三千年来、法を守るために、弟子の育成と後継者の選択に生命をかけてきました。また弟子や後継者、いわば児孫の脚下を借りてその法を守ってきました。

それと同様に、一般社団法人大日本武徳会の会員一同は、東伏見慈治前総裁の理念である「襲古還新しゅうこかんしん」を座右の銘として、東伏見慈徳の下で日本古来の武道をつうじて今後の発展に努力していかなければならないと思えます。

桑原代表理事から「第一回最優秀賞の受賞は、大変な重責がある」との御言葉をいただきました。「命には終わりあり。芸道には果てあるべからず」という言葉があるとおり、直心会は、技のみに偏らず、心身ともに一生をかけて修行していくことを念頭に人材の育成を目指しております。

第一回の最優秀賞受賞団体として、今後も東伏見慈晃総裁の下、一般社団法人大日本武徳会の発展に微力ながら寄与してゆきたいと考えております。

京都市知事賞

「京都市知事賞」を受賞して

無雙直伝英信流居合道 尾張錬駿館 鈴木 俊雄

平成二十六年四月二十九日に開催されました「第五十二回全国武徳祭」におきまして、「京都市知事賞」を賜る栄誉を頂きました。これも理事長桑原兵充先生はじめとして諸先生方の御厚情と深く感謝申し上げます、御礼を申し上げます。

毎年、全国武徳祭に参加させて頂き、もう三十有余年、武徳祭にはめずらしく小雨模様の日となりました。総裁東伏見慈治猥下のご逝去を偲ぶ、しめやかなる追悼演武となりましたが、悲しみ、寂しさを断ち切つて、総裁の理念でありました「襲古還新」を念頭におき邁進したいと思ひます。謹んで心からご冥福をお祈り申し上げます。

京都市長賞

京都市長賞を受賞して

村田 雅人

総裁東伏見追悼第五十二回全国武徳祭にて京都市長賞を受く。新総裁東伏見慈晃猥下、既に、前総裁慈治猥下と幽明界を異にされ、お悲しみの中、慈顔を以て手ずから下さる。猥下の心中を慮て追悼と感謝の意を込め、ただ頭を垂れるのみ。

この度の我が身、生死の中、最勝の善身なるを徒にして露命を無常の風に任することなく、精励克己、何も求めず無心にて為すべきを為せば、必ずや道は平安、涅槃の道とならん。斯く心得、厚恩に報わんと今後なお為すべきを為し、ただ邁進する所存。乞う、不攝而攝、それ哀悲を垂れたまわんことを。

皆様のご健康とご多幸、一般社団法人大日本武徳会のご発展を心より祈念申し上げます。

# 全国武徳祭での立ち振る舞い 「高みを目指す」

石川県支部 長田 順一

春光天地に満ち青葉風薫る候。本年四月二十九日「東伏見慈治総裁追悼・第五十二回全国武徳祭」が開催されました。今回の武徳祭は、本部の理事会が計画された新しい武徳祭運営の試金石となる大会でした。武道執行専門委員の中より各種役割を分担して進行する方法です。

特に高田寛次先生を委員長に管理運営委員が組織されました。武徳祭での質的規範・礼節規範の取り組みです。武徳祭に参加された方々に武道家の誇りと尊厳を今一度学ぶ機会にしたいとの意思です。早朝よりの会場準備を終えた旧武徳殿に管理委員会のメンバーが集まりました。高田委員長から武道家として大会での開会式から閉会式までの立ち振る舞いをもう一度徹底したいとお言葉です。旧武徳殿への出入り口での礼儀作法・演武態度・不慮の事故への対応など細部に及んでいます。

「そう難しく考えずに武道を学ぶ者が行う行動かを指針にして、参加の皆さん方に思い出に残る大会にして欲しい。管理運営委員に与えられた権限は演武を止めることもできますが、暴力的に声高々に指導することなく、武徳会会員を武道家として高みに導くと言う態度、言葉使いに心して頂きたい。演武を止めるときは、毅然として、「止め」を発する。後の始末は私が処理する」とのお言葉でした。

検証委員としての作法もあります。体調不良や緊張で日頃の演武が出来ない方。試斬りで刀を曲げてしまった事例もあります。演武者が見苦しい所作を自身で理解できない精神状態の時は、検証委員としてどういう態度を取るか大変難しい判断を瞬時に行う必要があります。

今回の大会では、演武時間を計り、時間超過者には黄色旗を揚げて注意喚起も行いました。本来なら必要のないことです。演武者自身が時間管理を徹底して頂ければと思います。時間をオーバーされた演武者の意識として、遠方より参加して七分の時間しかないのか、自己流派の素晴らしさを伝えたいなど色々な理由があります。しかし我慢が必要で。

今回参加者は四十七団体でした。時間超過団体は四組でした。反対に国際部・濱田鉄心先生の演武時間は三分五十五秒に凝縮されていました。磨き抜かれた演技内容は心に残るものでした。他演武者の終了を待つ態度も威風堂々です。

会合での挨拶でも長々と話される方と短い中に心に残るお話と色々なスピーチがあります。武道家はどこを目指しますか。

世間一般に自分の意のままにならないのが世の中にかくさんあることは、皆さんが承知していることです。相手の行いを善意にみるだけで、物の見方、感じ方が変わります。そういう気持ちになると人間の幅も広がります。お互いに親切心をもって見るときは目・口元・顔の表情に好意が見て取れます。言葉だけでは伝えられないものが伝わってきます。武道家としての立ち振る舞いに厚みが増してきます。

桑原兵充先生のお話に「和魂」の心がよく出てきます。今このことに集中し、一瞬を輝かす。天より与えられた使命を自ら学び深め、腹を決めて覚悟を決める。そしてことに当たる。一瞬に生きるという一念が大切だということを教えておいでます。今回の最後に演武されま



## 高段者審査会

### 居合術七段受験

無双直伝英信流 至誠館道場 平 松男

武徳殿の門をくぐると、たった今審査員講習会会議を終えた藤井師範が何やら慌てふためいて駆け寄って来た。

藤井師範の話によると、今回から昇段検定の審査方法がガラリと変わるという。

しかし「我々は、普段の稽古のとおりやれば、きつといい結果が生まれる」とハッパをかけられた。

「七段」ともいうと技はできて当たり前、あとは品格、所作礼儀、残心など、人間として自然に身に付いたものがあらわれると言う。

正装に着替え、気を引き締め、旧武徳殿に向かう。途中柔術の審査員としてこられた竹田先生から、「平さん、去年だったら良かったのに、今年から難しいぞ」とプレッシャーをかけられる。

注意事項、審査方法、採点方法の説明があり、いよいよ、五人の先生方の前で演武が始まる。さあ次は、自分の番だ、久しぶりに味わうこの瞬間、胸はドキドキ、心臓バクバク、頭真っ白。

段位、姓名を名乗った。あとは、演武。無心に日ごろの稽古の発表を味わうつもりで、剣を振る、所作は、出来たか、残心は、一つ一つ注意しながら演武が終了、ホッ。

先生方が審査員席で集まり、何やら話し合い、集計・・・静かに時は、流れた。

いよいよ濱田先生による可否の発表。「合格」の一声、「よかった」。藤井先生に感謝、審査員の先生方に感謝、特に岡崎先生から過大な褒めの言葉をいただき、誠に有難うございました。

特に本年度七段合格者は、私一人、と言うことは、日本で一人、それは、世界で一人。

それゆえ推薦してくださった先生方の恩に報いる為、また、武徳会の名譽に恥じぬよう、そして日本の文化を守る為、稽古もう一つ稽古し、後輩への伝達、育成に精進する覚悟です。

### 高段者審査会に臨んで

(特法) 日本武道空手協会

安部俊伯宗藝

福岡県古賀市在住

平成二十六年四月二十八日、伝統ある第五十二回全国武徳祭・高段者審査会にて、空手道六段及び練士を受審し、合格させて頂きましたことにつきまして、ご推薦頂きました道観世宗慶先生を始め、関係の皆様へ厚く御礼申し上げます。

二月中頃に、道観世宗慶先生より高段者審査会のご案内を頂きました。伝統ある大日本武徳会の高段者審査会は、別世界のことと思えました。常にチャレンジ精神を持つての嘗ての師の言葉に導かれ、また道観世宗慶先生のお薦めも頂き、受審を決断致しました。

元来、脳天気な私は、京都散策もできるしと深く考えることなく、日々の稽古を繰り返しました。当日、京都駅から市内散策をしながら武徳殿に向かいました。数年ぶりの武徳殿の前に立ったとき、急激な緊張感に襲われました。厳肅な雰囲気漂う武徳殿は、その歴史からくる重みを感じないわけにはいきませんでした。

昨年までは全国武徳祭の中で行っていたのですが、今年が高段者審査会は武徳祭から独立して実施されました。着替えを済ませ、審査会について諸注意を受け、準備運動から型の反復を行う中で、より冷静であることに心がけることができました。

居合道の方々と空手道は二面で同時に進行する慣れない環境の中、どうも一番手のようです。指名されれば、あとは緊張している暇もなく、気持ちを集中して、演武に挑みました。二種類の型の指示があり、全力で挑みました。

一番緊張したのは、当日結果を発表された時ですが、厳しいと思っていた結果が、思いがけなく合格と告げられた時には、表現のしようのない虚脱感に襲われました。

この度の高段者審査会を受審したことを通して、いつの間にか漫然と稽古していた自分に緊張感を与えることができたと思います。審査には合格しましたが、道半ばの武道修行。今後も、段位及び称号に恥ずかしくない心技体を身につけるため、益々精進しなければと思います。返した次第です。

## 高段者審査会を受験して

直伝円心流居合道 小野 純一

今秋号は総裁追悼記念号として発刊との事ですので、良い結果の感想文にて投稿出来れば良かったのですが、今回小生昇段審査会に受験させて頂きましたが、残念ながら私の未熟さで、審査が始まる直前より年甲斐もなく緊張のあまり大変お見苦しい所作をお見せしてしまい、真に恥ずかしいයි。申し訳ありませんでした。

大変残念でしたが、当然の事ながら昇段審査に叶う事は有りませんでした。思えば昇段試験の受験は、今回と同じ旧武徳殿で三十五年ほど前になりますが、剣道の昇段試験を受験したのが最後でしたが、何故か若かりし当時より今回の方が、恥ずかしい次第ですが年甲斐もなく緊張していたのかも解りません。

残念で悔いは残りますが、剣豪宮本武蔵の五輪の書の中に「我事において後悔をせず」と書かれているように、悔やんで後悔しても取り返せるものではないので、気を取り直し未熟な自分に反省に反省を重ね稽古に励んで行きます。

今秋十月には平安神宮奉納演武大会が控えています。あのような失態を二度と起こさないよう稽古に励んで行く所存です。

# 二〇一四総裁追悼国際武道錬成大会に寄せた

理事 中田 武太

六年に亘る国際部武道講習会は今回で一つの区切りとする講習会でありました。六月二十一日から二十八日に亘って開催された講習会にはイタリア、フランス、ベルギー、ドイツ、イギリス、アメリカ、ロシアの七カ国四十七名の受講者が集まり、柳流柔術、各流派居合道、空手道に真剣に講習の汗を流しました。濱田鉄心先生のイニシアティブで、講師の柳流柔術の川村八朗先生・竹田豊先生、無双直伝英信流居合兵法の藤井正巳先生、土佐伝承直伝英信流の一色克己先生、夢想神伝流の目黒信良先生、神伝円心流の森内一藏先生、虚心流居合剣法の山本楠城先生、日本剣道形の高田寛次先生、そして各門下の先生方には微に入り細に入り講習をして頂き、猛暑の最中にもかかわらず本当に有難く、その献身的な姿勢に深く敬意を表します。

私は二十八日の講習会の集大成の国際武道錬成大会に本部役員として列席して講評の役目を務めました。今回の講習会も各国チームは甲乙付け難い気迫に満ち溢れた素晴らしいデモンストレーションでありました。一週間という短時間で異武種の全く新しい技を正確に習得し披露した受講者と、指導された先生方に対して、心からの敬意と感謝の意を表したいと思います。それは日本武道の精神性と各技・動作の

理解がなければ到底表現できない演武で、まさに心技体一致の立派なデモンストレーションでありました。そして、今回は以前と違う感覚で拝見いたしました。それは受講者がこれまでの技量の壁を破った一段上の域に達したものを感じたからであります。気迫のこもった中にも、強く激しく素早く、時に静かに美しくゆつくりとした演武は無我・克己の域であると、見る者の心に響いてきたからであります。

この旧武徳殿には武道に勤しんだ先人の魂が宿っています。床の節々には先人の汗が染み込んでいます。この神聖な殿堂では礼節を重んじることは武道人として当然のことですが、今回の受講者も演武を待つ姿勢態度から、退場し演武を見学する姿勢態度に至るまで大変立派でした。国、言葉、文化、習慣など異なっても、それを越えて一つの目標に向かってこの一週間共に頑張ったことは、受講者ひとり一人が自己研鑽を成し遂げた者だけが得る事の出来る無形の財産であり、それぞれの国や地域や武徳会の発展のため、ひいては世界平和のために欠くことの出来ないものと信じております。

## 一般社団法人大日本武徳会 国際部武道講習会に臨んで

範士八段 川村 八朗

今年の国際部武道講習会（六月二十二日～二十七日）国際錬成大会（二十八日）

アメリカ二十 ロシア十三 フランス七 イギリス二 イタリア三  
ベルギー一 ドイツ一

七ヶ国 四十七名参加

居合道五流派、智心流空手、柳流柔術

居合道に於いては五流派の技を短期間で覚えるのは大変な事であると思われのだが、錬成大会で観る限り、何の懸念もなく見事な剣捌きで演武を披露されました。

昨年のロンドン大会と続いて居合道も世界中に広がり、技術は相当高くなっていると観ました。国際部武道講習会も六年連続となり、教える側としては最初懸念も有ったが、だんだんと良くなって、今年はこちらにも勉強させられるものがありました。

ロシアチーム、アラバジル教士が率いる練習生達の、睡眠時間を惜しみ一生懸命練習した結果として、前日の技を朝一番に検証した事も有り如実に表れていました。先年までの講習では、ロシア虚実実戦武道がときたま顔を出していたが、今年は自分達の柔術の技を封じ込めて真剣に柳流柔術に取り組む姿が、毎日の練習と錬成大会で見事に

表現されました。

六年間練習を続けて来て、今年は一番良かったと竹田範士とも語り合っておる次第で、最後の錬成大会では、居合、空手、柔術、アメリカ女性剣士による剣道形、講習会で指導を受けた技を気迫を込めて演武をやり遂げた姿は印象的で清々しさを感じさせてくれました。

だが少し残念に思うことも有りました。居合でたくさん先生の方から指導に当たられたが、教えた技を最後の錬成大会で検証の場に出られなかった事、やはり自分で検証する事も先々に於いては勉強になるのではと思うのですが、少し寂しい思いでした。

一般社団法人大日本武徳会並びに国際部の益々の御発展を御祈ります。

## 真剣な眼差しでの国際部武道講習会

虚心流居合剣法宗家 範士八段 山本 楠城

この度、六月下旬に行われた国際部武道講習会、居合道の部の講師を務めさせていただきました。本年は総裁追悼事業の一環として実施され、武徳殿に集合、黙祷の後、居合道は柔術と共に武道センターが会場となりました。

居合道参加者は、イタリア（二名）、フランス（七名）、ベルギー（一名）、英国（二名）、アメリカ（二名）、ロシア（六名）、等、七カ国か

ら計二十一名、なかには合気道の指導的立場にある人も数名おられた様ですが、講習の最終日であったにもかかわらず、疲れも見せず、真剣に学ばんとするその姿勢に感心させられました。

実は、その二日前、欧州での剣道、居合道指導から帰ったばかりでしたが、熱気と真剣な眼差しに、時差ぼけも吹っ飛んで、身の引き締まる思いで指導させて頂いた次第です。多様な流派グループから構成されていること、講習の最終日であり、既に多くの他流派の教授を受けていることから、内容としては、当流の技数本と共に、剣道との関連性、丹田への気のおろし方、呼吸法、肩の力の抜き方等の説明に重点を置きました。

各流派の技や理合の一端を学び経験し、古流武道に対する理解を深めんとする国際部武道講習会の趣旨は貴重なものと思います。

一般社団法人大日本武徳会、さらには国際部の益々の発展を願って止みません。

## — 国際部 — 総裁追悼武道講習会体験記

武道執行専門委員 居合道範士 日黒 信良

平成二十六年六月二十四日(火)～二十五日(水)の二日間に渡り、居合道夢想神伝流の指導を京都武道センター・武徳殿にて受け持たせていただきました。

名)、英国(二名)、アメリカ(二名)、ロシア(六名)、等、七カ国か

参加人数は、イタリア・フランス・ベルギー・ドイツ・イギリス・アメリカ・ロシアの七ヶ国、計二十三名であり、内十一名は初心者クラス(以降Aグループ)、十二名は中級指導者クラス(以降Bグループ)であり、よって、A・B二グループに分けて指導を行なう事になりました。Aグループの指導は、今回私の補助員として参加しております小松秀敏氏(彼は我が一門で、初伝・中伝は免許認可、奥伝は免許に近い目録認可と、実力十分な優秀なる人材)に行なっていただき、Bグループを私が指導する事といたしました。

さて、実技に入る前に、A・Bグループ合同で夢想神伝流の始めと終りの礼法、神前(上座)師に対し、お互い(先輩・後輩・同僚)に対し、そして刀に対し、すなわち居合道の作法並びに心得をしつかり学んでいただきました。

いよいよ実技となり、夢想神伝流・目付け・抜付けの横一文字・斬付けの縦一文字・流刀・血振りの両斜・所作・残心・納刀・等々の基本と他流派との違いの部分を含入りに説明して、私が一本目の技を模範で抜き、二人一組六組が私の前で演武、その都度間違いを修正して六組が三回転した所で、次に二人が向かい合い、片側が抜いて対前の人指摘する、お互いに修正を行ないながら疑問点があれば、私に質問をして私が回答を行なう。

そのくり返しを二度行なった後、再度二人一組で六組が私の前で演武を行い、全員が良しとの見極めで二本目の技に進む。驚いた事に、彼らの覚えが非常に早い、真剣な、そして素直で礼儀正しい学びの姿勢は、感動すらいりました。一日目にして初伝十二本を修了出来た事は、さすが指導者クラスであり、居合道経験者である事だけの事はあると思いました。

二日目は、前日のおさらいを一通り行ない、私から本日中伝を行ない

たい方はとの問い掛けに対し全員が挙手して、その熱い眼差しに、当方もやる気満々となりました。

中伝十本中、五本目まで行なった時に、本日十五時より成果発表を武徳殿で行なうとの連絡があり、やむなく中断して十四時～十五時までA・Bグループ合同で発表会の演武練習を行なう。初心者グループをかんがみ、初伝から五本を選び、リーダーを中心に五回実施する。特筆は、リーダーの居合道演武の間合いは三呼吸で行なうべく全員に指示を出されていた事に、その心得に対し嬉しく思いました。

十五時、武道センターから武徳殿に移動、最初に夢想神伝流居合道、二番目に柳流柔術、三番目に智心流空手道・古武道の順番で行なう事となり、二日間の修練の成果がいかように表われるか、尚、濱田先生から評価点を付けて下さいとの事でもあり、緊張の時間帯でありました。

さて、演武開始、A・B全員二十三名リーダーを中心に一糸乱れぬ礼法・演武、五本を堂々と演武し、最後の礼をした瞬間、私は熱い拍手を送っております。そしていよいよ評価点“と”その時濱田先生より八十点ですかとの言葉があり“え”すべてに厳しい着眼点をお持ちの濱田先生より八十点の高評価。私はとつさに八十五点とお答えした所、目黒先生は甘いですねーとニッコリされたお顔に、また高田先生からもリッパでしたとの言葉もいただき、二日間の疲れもすべて癒され、胸が熱くなりました。

成果発表もすべて終了して、国際部全員の拍手で送られ、着替えのため武道センターに移動して身支度を整え、刀の手入れ等で若干の時間が掛り、センターの玄関に出た所、濱田先生が待っておられ、御苦労様でした、お帰りは良い旅でありますようにとの温かいお言葉で送っていただき、今回このすばらしい体験の機会を与えていただいた

厳しくも優しさあふれる濱田鉄心先生に大いなる感謝の気持ちで御礼申し上げ、一般社団法人大日本武徳会並びに国際部の益々の発展を祈念いたして、すがすがしい気持ちで帰路につかせていただきました。

## 一期重会の国際部武道講習会に

神伝円心流 森内 一藏

国際部武道講習会が六月二十一日から二十八日まで、各主要古武道流派によって行われ、二十六日が当流派の担当日でありました。

当日は、武徳殿において、開会挨拶の後、武道センターに会場を移し講習を予定通り始めました。受講者は、イタリア・フランス・ベルギー・ドイツ・アメリカ・ロシアと国情も言葉も文化も違う人達が技を磨き、武道を通して人間形成という目的に向かう意気込みを感じながら、講習内容の説明から、作法・基本刀法と指導を進めて行くうちに、緊張した雰囲気も解け、連日の暑さにも関わらず、疲れも忘れ熱心に指導を受ける姿は真の修行者を見た思いでした。

受講者は各自の流派の技はもとより、毎日、異なる流派の技を学び、難しい技の習得は困難であろうと思っておりましたが、新しい技を無難に会得したのには感心を致しました。講習の最後に全員で刀礼から刀法を含め形を行ない、その出来栄は見事なものでありました。

また、講習会後、武徳殿において、受講成果を発表する演武を見て、

労様でした、お帰りは良い旅でありますようにとの温かいお言葉で送っていただき、今回このすばらしい体験の機会を与えていただいた、

とても短時間で習得したものは思えぬ素晴らしいものでありました。改めて各国の受講者の優秀さに感激致しました。

この様な機会を与えて頂いた関係各位に深く感謝するとともに、この一期が縁となり、一會が重会となり、全世界に日本の武道の素晴らしさを広く普及しなければならぬと思いました。

結びに、国際部の益々の発展はもとより、一般社団法人大日本武徳会の隆盛をご祈念申し上げます。

## 武徳会国際部居合道指導に参加して

長野県支部 古武道唯心会

夢想神伝流居合道

小松 秀敏

今回夢想神伝流居合を国際部の面々に指導すべく、目黒信良先生の門下生として初めて参加させていただきました。夢想神伝流の教えを乞うて来日した外国人は、フランス・アメリカ・ドイツをはじめ二十三名。居合経験の長い十二名と、まだ経験の浅い十一名のグループに分け、私は経験の浅いグループを担当させていただきました。私とて目黒先生の道場の末席に座るものとして、夢想神伝流の理合・礼法・刀法・目付・残心等をいかに理解して技術を、二日間という短い期間に体験・習得してもらおうか、参加者と一緒になって考え修練しました。

まず私が模範となって演武し、理合を説明し、刀法・目付・残心等

刀法を含め形を行ない、その出来栄は見事なものでありました。

また、講習会后、武徳殿において、受講成果を発表する演武を見て、

の注意点を説明し、彼らに何度も何度も繰り返し実施させました。居合は単に素早く抜き切りつけることではなく、間近に相手がいて、後の先を理解し、相手が今どこにいるのかを目線・目付で感じ、抜き附け切りつけ、その後の相手の動きを予想する残心を培うことを反復練習させました。

時には全員で相向き合って抜き合ったり、私とも向き合って刀法・間合いを確かめ合ったり、着座するとき・刀札等にゆっくり且つ辺りに気を配る練習をしました。

来日した彼らは真面目で礼儀正しく素晴らしい人たちでした。初日は初伝の三本のみを、何度も何度も立ったり座ったりの繰り返しを嫌な顔もせず、真剣にしている姿は素晴らしいものを感じました。時には手取り足取り教えるのですが、たまに触る手などは汗でびしょりでした。二日目はさらに初伝の三本を教え、午後は成果発表のための熟練者との合同演武の練習でした。技術的に劣る彼らに特に指導したかったのは、姿勢の綺麗さ（いつ時も背筋がまっすぐに、特に着座するときの姿勢は厳しく指導しました）・ゆったりした動作（足の踏みかえ時、残心時、納刀時、着座時）なので、私も何度も彼らの前でやって見せましたし、彼らにもその都度、注意指導、反復練習させました。その甲斐があったのは、成果発表の時の彼らの演武でした。熟練者に負けず堂々とした雰囲気を出し、姿勢正しく落ち着いて全員そろって演武ができたとき、感動すら覚え、熱い拍手をしました。彼らとこういう機会が得られ、共に鍛錬できたことに対して、国際部の濱



国際部武道講習会及び  
総裁追悼国際錬成大会